

# 薬剤部

薬剤部長 小原 義巳

## 〔平成 31 年度・令和元年度部門目標〕

- ・病院の目標に対する薬剤部の目標  
安全・安心な医療を提供し、信頼される薬剤師業務を遂行する。
- ・薬剤部の課題に対する目標  
適正な薬物療法を提案できる薬剤師をめざす。  
患者さんの立場に立って、心あたたまる態度で対応する。  
良好なコミュニケーションをとり、チームワークを活かして業務を行う。

## 1 業務体制

### (1) 業務内容

○調剤室業務	外来・入院調剤、院外処方箋監査・交付、 外来・入院がん化学療法監査・調製、注射箋調剤
○倉庫室業務	注射・外用薬定時払出、注射・外用薬臨時払出、注射箋用薬剤払出
○製剤室業務	T P N 調製、院内製剤調製
○医薬品管理業務	麻薬管理、向精神薬管理、毒薬管理、特定生物由来製剤管理、 一般薬管理、マスタ管理業務
○夜間救急診療業務	採用医薬品管理
○D I 業務	医薬品情報の管理・提供、副作用の報告
○病棟業務	病棟薬品管理、服薬指導、病棟薬剤業務
○外来業務	医薬品管理、外来患者服薬指導
○研修対応業務	院内研修会、院外研修会
○委員会業務	薬事委員会、治験審査委員会、化学療法委員会
○事務業務	庶務

### (2) 業務スタッフ

常勤薬剤師 16 名，非常勤薬剤師 5 名，非常勤助手 3 名

## 2 業務実績

### ① 薬剤管理指導料算定件数（表 1）

	合計	3 F	4 F	5 F	6 F	7 F	ICU	GCU	NICU
平成 29 年度	10,797	2,188	1,850	1,967	1,849	2,007	340	230	366
平成 30 年度	11,696	2,728	1,956	1,901	2,125	1,863	258	299	566
令和元年度	11,642	2,605	2,211	1,844	2,020	2,006	370	90	496

② 院外処方箋発行率（表 2）

	発行率	合計	院外	院内
平成 29 年度	95.9%	46,074	44,169	1,905
平成 30 年度	96.2%	47,125	45,323	1,802
令和元年度	97.0%	46,104	44,710	1,394

③ TPN、外来・入院がん化学療法の無菌調製（表 3）

	TPN 調製件数	がん化学療法注射箋件数
平成 29 年度	18	1,543
平成 30 年度	121	1,486
令和元年度	34	1,145

④ 病棟薬剤業務実施加算件数（表 4）

	合計	3 F	4 F	5 F	6 F	7 F	ICU	GCU	NICU
平成 29 年度	13,455	3,045	2,004	2,389	2,430	1,709	552	385	941
平成 30 年度	13,438	2,862	2,069	2,389	2,617	1,580	319	666	936
令和元年度	13,877	2,982	2,364	2,365	2,527	1,702	522	420	995

### 3 1 年間の経過と今後の目標

薬剤管理指導については、表 1 のとおり、平成 29 年度 10,797 件、平成 30 年度 11,696 件、令和元年度は 11,642 件であった。平成 29 年度から平成 30 年度は約 8.3%の増加だったが、令和元年度は平成 30 年度とほぼ同等であり、月平均は約 970 件だった。

院外処方箋発行率は、表 2 のとおり、平成 29 年度から平成 30 年度は 0.3 ポイントの増加であったが、令和元年度は更に 0.8 ポイント増加し 97.0%になった。

TPN や外来・入院がん化学療法の無菌調製については、表 3 のとおりだった。TPN 調製は、令和元年度は 34 件と昨年度から減少した。がん化学療法の無菌調製件数は、平成 30 年度では外来 1271 件・入院 215 件であったが、令和元年度では外来 974 件・入院 171 件となった。外来件数は 297 件の減、入院件数は 44 件の減、全体として 341 件の減少となった。原因としては内服薬だけの乳がん治療法の採用により、注射薬の使用が減少したと考えられる。

令和 1 年度は、昨年度からの病棟業務担当者のバックアップ体制を継続した結果、昨年度と同等の服薬指導件数となった。外来では救急科の新設により薬の問い合わせに対応出来るように薬剤師の配置を行った。後発医薬品は、435 品目になり後発医薬品指数も目標である 88.4%を超えている。薬薬連携に関しては、疑義照会済みとみなす項目について PBPM を作成し、千葉市薬剤師会と契約を締結し、疑義照会の簡素化を行った。

今後の目標としては、診療科の増加に対応出来るように、適正な人員・業務配置を行う。そして、病棟活動や外来活動の更なる充実に取り組みたい。更に個人のレベルアップを図り、質の高い介入を目指し、患者の気持ちに寄り添い安心して信頼される薬剤業務を遂行していきたい。

## 〈資格修得〉

がん薬物療法認定薬剤師（日本病院薬剤師会）	1名
感染制御認定薬剤師（日本病院薬剤師会）	1名
妊婦・授乳婦薬物療法認定薬剤師（日本病院薬剤師会）	1名
小児薬物療法認定薬剤師（日本薬剤師研修センター）	1名
救急認定薬剤師（日本臨床救急医学会）	1名
日病薬病院薬学認定薬剤師（日本病院薬剤師会）	8名
生涯研修履修認定薬剤師（日本病院薬剤師会）	1名
生涯研修認定薬剤師（日本病院薬剤師会）	3名
認定実務実習指導薬剤師（日本薬剤師研修センター）	6名
研修認定薬剤師（日本薬剤師研修センター）	7名
栄養サポートチーム専門療法士（日本静脈経腸栄養学会）	2名
日本DMAT隊員	1名
スポーツファーマシスト	1名
千葉県糖尿病療養指導士	2名
千葉県災害時支援薬剤師	1名